

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 22 日作成)

小委員会名	都市環境気候図体系検討小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	
設置期間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「都市環境気候図」作成手法の整理・体系化</li> <li>・体系化成果の社会実装に向けた検討</li> <li>・ワークショップの実施</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：田中貴宏 (広島大学) 幹事：十二村佳樹 (岐阜大学) 委員：岩井一博 (信州大学)、橘高康介 (神戸大学)、清田誠良、竹林英樹 (神戸大学)、鍋島美奈子 (大阪市立大学)、鳴海大典 (横浜国立大学)、増田幸宏 (芝浦工業大学)、松尾薫 (広島大学)、宮崎ひろ志 (関西大学)、森山正和 (摂南大学)、依田浩敏 (近畿大学)、渡邊浩文 (東北工業大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2018 年度予算	125,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fi00-12/fi50-15.html">http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fi00-12/fi50-15.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 従来、作成してきた都市レベルの都市環境気候図について体系化を行った。 2. ワークショップを開催し、都市環境気候図の活用を試みた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 従来、都市レベルの都市環境気候図を検討してきたが、街区レベルの適応に向けた都市環境気候図の検討が必要である。

## 2018 年度 小委員会活動 自己評価

## (最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>B</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>これまで、10年以上をかけて、全国各地で作成されてきた都市環境気候図（主に都市レベル）の作成事例の調査を行い、その結果をもとに、委員会で議論を行い、都市環境気候図の体系化を行った。具体的には、都市環境気候図（都市レベル）が、大きく、地表面の状況を示すレイヤー（クリマトープ、Local Climate Zone、土地被覆分類図、土地利用現況図等）、風の状況を示すレイヤー（観測値による風配図、卓越風の矢印、メソ気象モデル等の数値計算によるゾーニング等）、およびベースマップとなるレイヤー（地形図、航空写真等）の3レイヤーで構成されるということを示し、またこれらによる雛形を示した（成果は、書籍等で公表予定）。また、社会実装のための道筋（活用方法）としては、ワークショップでの利用等があることを示し、実際にその試行を行った。一方、近年、社会的課題となりつつある、「適応」については、現在の都市レベルの都市環境気候図では対応が難しく、新たに地区・街区レベルの都市環境気候図が必要であることを示した。この詳細検討については、次期の委員会にて検討を引き継ぐ予定である。また、主査の責任で、書籍刊行等に遅れがあった。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。